

国際関連情報 国際会議等

UNCTAD ISAR ワークショップ 参加報告

かわにし やすのぶ
ASBJ 常勤委員 川西 安喜



1. はじめに

2018年10月22日、スイスのジュネーブにある国際連合欧州本部において、国連貿易開発会議（United Nations Conference on Trade and Development；UNCTAD）のISAR¹ワークショップが開催された。今年のテーマは「デジタル通貨とブロックチェーン：会計への影響」であった。企業会計基準委員会（ASBJ）が今年の3月に仮想通貨に関する会計基準²を公表していたことから、ISARワークショップのパネリストとしてご招待いただき、筆者が参加することとなった。

2. パネル・ディスカッション

ISARワークショップでは2つのパネル・ディスカッションが行われた。1つ目のパネル・ディスカッションでは、ブロックチェーンが企業の記帳がどのように変わるのかということを中心に議論された。本稿では詳細は割愛する。

2つ目のパネル・ディスカッションでは、仮想通貨の会計処理はどうあるべきかをテーマに議論された。このパネル・ディスカッションのモデレーターはDavid Szafran氏（Eubelius）、パネリストはCraig Smith氏（国際会計基準審議会（IASB））、Kris Peach氏（オーストラリア会計基準審議会（AASB））及び筆者であった。

パネル・ディスカッションでは、まず、AASBのKris Peach氏より、現行のIFRS基準の下では仮想通貨が適切に会計処理されず、IASBが基準を改訂する必要があるのではないかと指摘された。続いて、筆者より、日本基準の下でASBJが開発した仮想通貨に関する会計基準の概要について説明し、

1 International Standards of Accounting and Reportingの頭文字をとったものである。

2 実務対応報告第38号「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」。

IFRS 基準の文脈で同様の基準開発を行った場合の課題等について説明を行った。最後に、IASB の Craig Smith 氏より、IASB におけるこれまでの活動と、今後、予定されている活動について説明があった。

3. おわりに

ASBJ が公表した仮想通貨に関する会計基準は、主要な会計基準設定主体が公表した会計基準としては最初のものである。今回、パネリストとしてご招待いただいたことは、仮想通貨に関する会計基準について世界的に関心が高いことを示しているといえる。

仮想通貨に関する会計基準の開発にあたっての ASBJ の経験を共有することにより、各国の会計基準の開発に活かしていただく活動は、新しい形での ASBJ による国際貢献になったのではないかと考えられる。